

## 巻頭言

### 特集号 実海域実船性能評価プロジェクト(OCTARVIAプロジェクト)の活動紹介

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所  
海上技術安全研究所流体設計系長 辻本 勝

船舶からの地球温暖化ガス排出削減を進めていく中、船舶が実際に航行する波や風のある環境下で変化する速力、燃料消費量を正確に把握し、設計や運航での改善に繋げ、一層の地球温暖化ガス排出削減を進める必要があります。

実船が実海域を航行するときの性能を正確に推定することができれば、それを船の設計や運航に活かすことができます。また、このような性能データがいち早く分かるようになることは国際競争力の強化にもつながります。つまり、実海域性能の優位な船を評価できるようになるということは、船舶の付加価値の見える化・差別化が可能になることを意味します。

このような背景のもと、海運・造船・船用メーカーなど25社が参加した海事クラスター共同研究「実海域実船性能評価(OCTARVIA)プロジェクト」が実施されました。

本特集号では、2017年10月から2021年3月までの3年半にプロジェクトで取り組んだ内容を報告します。

「OCTARVIAプロジェクトの概要」では、プロジェクトの設立経緯、研究目標と期待効果、全体実施事項について記載しています。

また、研究では3つのサブテーマを設定し、それぞれの課題に取り組む以下のワーキンググループを設けました。

- (S1-WG) 実海域における実船性能モニタリング手法の構築
- (S2-WG) 実海域性能推定手法の構築
- (S3-WG) 実海域性能評価手法の確立

各ワーキンググループでの実施事項について、それぞれ論文にまとめています。

「実船モニタリングによる実船性能評価法の構築」では、S1-WGで取り組んだ内容から、実船モニタリングデータの解析法を中心に記載しています。

「設計段階での実船性能推定法の構築」では、S2-WGで取り組んだ内容から、模型試験・解析法、実海域性能の標準推定法を中心に記載しています。

「実海域実船性能評価指標-ライフサイクル主機燃費-」では、S3-WGで取り組んだ内容から、標準運航モデルによるライフサイクル主機燃費による評価法を中心に記載しています。

OCTARVIAプロジェクトにより、3つの計算プログラムパッケージ、7つの標準手順書が開発、整備されています。これらの成果が社会で利用されていくことを期待して巻頭言とさせていただきます。